

N P O 法 人

子どもの虐待防止

ネットワーク・かがわ

ニューズレター No. 14

子育てのイメージは何ですか？

井上 丈子

かつては田舎では家の玄関口や納屋の柱などにスズメやツバメがよく巣を作っていました。温めていた卵がかえり、ヒナが誕生すると、親鳥たちは、虫を探して一日中飛び回っています。そして、親鳥が巣に近づくと、ひな鳥たちが大きな口を精一杯開けて、ピーピーと鳴いている姿は可愛らしく、子育てのイメージをそれにだぶらせて、ほほえましく眺めていた記憶があります。

子どもを育てるために一途な親の姿と、それを必死に待ちわび、100%親に頼り切って甘え喜んでいるヒナの姿。こうした形が典型的な子育てと思いこんでおりました。

このような理想を持って子育てに入ったものですから、突然火がついたように泣き叫びだすとなぜだかわからずにオロオロしたり、少し大きくなって自我が出てきてイヤイヤ期に入ると憎まれ口をたたかれ腹を立てたり、本当に大変でした。

子育てにあって、現実と理想のギャップはどなたにでもあったらと思うと思います。皆さんはどのようなギャップを感じられたのでしょうか。そのギャップをどのように修正されましたか。是非、何かありましたらEメールやFAXでお知らせください。



1、子どもが大人になるために乗り越えていく3つのテーマ。

- 幼児期) ①共有体験 家族と一緒に体験をすること
- ②貢献感 最も重要で「私は居るだけで誰かに貢献している」という実感を持つこと。「お前は要らない子だ」と言われたり感じさせる虐待は継続し周囲から分りにくく被虐待児の受けるダメージは計り知れない。貢献感人は生きる上で重要なモチベーションで、どの時点からでも体験させることが重要。
- ③割込みスキル 誰かが話している所へスッと入っていく技である。

児童期) 社会にある“理不尽さ”に折り合いをつけることを学び、周囲に合わせてなんとか我慢するようになる。

思春期) 自分で自分の時間を使えるようになる。自分を見つめる時間や機会を得ることで「自分も捨てたもんじゃない」と思えるようになる。

* 各々の時期のテーマを知っていればこの子に今何が必要かを判って対応することができる。

2、虐待者を虐待しないように支援する有効な手だて。

- その人の全てを受け入れる・認める姿勢 → 取り組みやすいと感じて行動に移り易い。
例えば、虐待者が何かに気を取られ被虐待者を放置しているような時間：互いを脅かしていない時間を広げていくよう勧め、虐待者があたかも“自分の力で虐待を起ささないようにしている”ように語りかけ、「今まで出来ていたのに見過ごしてきた状態を広げるだけでいい」と伝える。
- 「上手く子育てができない」「子育ては愛情が第一なのに自分は子どもが憎らしい」と思っている人には「スキルを学べば虐待をしない」「人間関係はコミュニケーションが出来れば大丈夫なので子育てもその方法を習得すればOK」「愛情はそんな人間関係の中から育まれる」と伝える。
- 「反省しない・人を責めない」「期待を込めないで実践する」「方法を学ぶ」ことが大事。

講演会に参加して感想

先生ご自身の体験談を交え大変分かりやすく話してくださいました。子どもの成長過程で家・学校・自分の中・社会において、それぞれの自分の居場所を確保する事の大切さ、特に幼児期・学童期の体験が大変重要であることがよく理解できました。しかし便利で物質的には豊かになったものの、子供の成長過程に必要な体験の機会が失われてしまっているというお話には私たち大人自身にとって常に考えるべき問題だと思いました。 (Y. H)

子育ての困難さの理由とする「人間関係」を「コミュニケーション」に置き換え、スキルやルールなどの技術的な問題にする。技術なら学べる。心は後から付いてくる。この部分の特に「学べる」という言葉に救われる思いがしました。人間関係のもつれは解きほぐせなくても、「学べるもの」なら何とかなるかも一と。解釈がズレているかもしれませんが日常にも活かせるように思いました。 (T. I)

☆ 第13回学術集会：みえ大会に参加して ☆

- 私自身、絵本の読み聞かせに携わって20年余りになることもあって、「心に響く絵本とは何か」「どう語りかけていくのか」「児童・学童への読み聞かせがどう伝わっていくのか」という思いや疑問が常に心に渦巻いていた。柳田郁男氏の講演はその疑問を後押しし、絵本の奥深さを改めて考えさせられるものであった。

現状は親の方がバーチャルメディアのとりこになっており、テレビでの子育ては携帯電話に変化しただけのこと。母親同士の会話がなく、乳児の顔を見ないで携帯をしながら母乳・ミルクを飲ませたりしていることも起こっている。

絵本を取り入れることによる利点は濃厚なアタッチメントができるということで、子どもにとっては「言語の確立、感性・感情の発達、文脈の理解力の獲得」に役立ち、肉声を聞くことができ子ども自身が時間をコントロールできるメディアである。さらに絵本によって、子どもの心の発達を絵本で語れる・子どもにとって辛い・悲しいという気持ちは大切にできる・絵本によって子どもと親の成長につなげることも挙げられる。

(K. N)

- 妊娠期から始める母と子のきずな作り企画「ドゥーラ物語」より衝撃を受けた。日本の昔の産婆さんの活動に似ていて、違う点は「免許も持たず、心の支えと支援の提供と受け方を知らせる」ということだろうか。どうやって支援を受けていいのかわからず、それを知らせる大人の存在もいない、連続したサポートがないことなどからドゥーラの取り組みが必要であろうという見解から今後の過程として。妊娠期からの関わりで子どもは母親の感情の変化を胎内より受け、生まれてからの感情も母子ともに変化する。その結果として子育てにも心のゆとりができ、子どもの虐待防止につながるのではないだろうか。

(K. N)

- 国際シンポジウム「アジアの子育て、虐待から学ぶこと」に参加して

中国・香港・タイ・フィリピンの教育文化と虐待との関係を考えて時には、これら各国の発表に共通するキーワードは体罰である。体罰はしつけの重要な一部と考えられているが、その体罰が虐待の要因にもなっているということである。

日本では体罰は禁止されており、それに対する理解も進んでいる。この点のみを捉えて日本の躾や虐待防止活動がこれらの国々より進んでいると言い切るのは軽々ではなかろうか。

各国の教育文化も経済のグローバル化の如く一元的に捉えたとすれば、その根底にある文化そのものの軽視につながる。私たちは隣人であるアジアの文化を見つめることで、今一度日本の教育文化を見直しそれらを踏まえて「親とは何か・子どもとは何か・育むとは何か・親子関係・家族関係など」について自らに問い直してもいいのではなかろうか。

(S. O)

掲 示 板

- H19年11月6～19日にかけて「全国一斉相談電話」に参加しました。その際より、ナビダイヤルが設置され当会の子どもの虐待ホットライン・かがわでの相談受付時間以外にも全国の他の虐待相談電話にナビダイヤルでつながることができるようになりました。

電話相談は

「こんなことで…」と思わないで
お気軽に、お電話ください。



電話相談

子どもの虐待ホットライン・かがわ

☎087-888-0182

毎週火・木・土曜日 10:00～14:00 秘密は必ず守ります

全国共通ナビダイヤル

0570-011-077



親子の広場「楽っ子」 (無料)

日時：第4水曜日 10:30～12:30

場所：マルナカ・パワーシティー屋島店
2F トイザラス前

- 募 集) * 楽っ子のお手伝いをしていただけるボランティアの方。
* 活動員・電話相談員(要研修)になってくださる方。
* 会員・賛助会員になってくださる方。

本会へのご協力、ご支援をお願いいたします。

振込み先) 郵便振込口座 : 01630-5-2437

加入者名 : (特)子どもの虐待防止ネットワークかがわ

- 「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」

高松サティで毎月11日にお買い物時に発行された黄色いレシートを当会の箱に入れてくださると、お買い物した金額の一部が当会への寄付金になります。御協力お願いいたします。

特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ ニュースレター№14 2008年 3月 発行

事 務 所 TEL : 087-888-0758 FAX : 087-888-1070

毎 週 火・木・土 (午前10時～午後3時)

ホームページ : <http://www7.ocn.ne.jp/~kcapn/>

Eメールアドレス : kcapn9999@siren.ocn.ne.jp